

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

華麗な舞で神楽ファンを魅了 帝釈峡近郷神楽競演大会

庄原市で最も大きな神楽イベントである「第25回帝釈峡近郷神楽競演大会」が12月9日、東城町老人福祉センターで開催され、市内をはじめ広島市や新見市などから神楽ファン約350人が訪れました。

国重要無形民俗文化財の比婆荒神神楽（東城町）のほか、県内から春木神楽団・今田神楽団（北広島町）、鳥取県から県指定無形民俗文化財の下奴屋荒神神楽団（江府町）が出演しました。

地元の比婆荒神神楽は、本山三宝荒神に奉納する祖霊信仰の神楽で、今回は「七座神事」「国譲りの能」を披露。演舞の中では観客との掛け合いもあり、厳粛な舞のなかにも観客の笑い声や歓声・拍手が沸き上がりました。

その他、迫力ある八俣の大蛇や華やかな衣装を身に付けた団員たちが熱く華麗な舞を披露し、観客は神楽の魅力堪能する一日となりました。



今田神楽団の華麗な舞

ふるさとの味を懐かしんで

今櫛会が出身者に地域食材を発送

西城の大屋自治振興区「今櫛会」が12月8日、地域で採れた農産物を詰め合わせた「今櫛ふるさと便」約100箱を地域出身者などに送りました。

ふるさとを離れて新年を迎える人たちに、ふるさとの味覚を楽しんでもらおうと今年で4回目。1箱3,000円で販売しています。



ふるさと便に詰め込んだ農産物



子どもたちも発送作業を手伝う

地域住民は大屋多目的集会所に集まり、里山のめぐみの産物、こだわり有機米・もち米・そば粉・あずき・ゆずなどのほか、乾物にした竹の子・くさぎ菜など11点を詰め込みました。乾物は、自治振興区活動促進補助事業で購入した乾燥機で、今年の春作ったものです。

今櫛会の國上美明会長は、「ふるさとを懐かしく感じて、食べてほしい」と話していました。

防災教育で生きる力をつける

高野中が避難訓練と防災教室

高野中学校が12月5日、避難訓練と防災教室を行いました。避難訓練は地震による火災を想定し、生徒は机の下に身を隠した後、教員の誘導により全生徒が避難しました。地震発生から人員確認まで5分という目標を達成し、指導した庄原消防署高野出張所の職員は「本番さながらの動きだった」と講評しました。

その後、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部による防災教室が行われ、土砂災害の原因と対策、避難の仕方を学びました。

秋山和典教頭は「高野中学校は通学部会で通学安全マップを作成しているが、今日の学習を生かして、再度危険箇所などを点検していきたい」と話していました。



土砂災害の原因と対策をグループ討議して発表

賢治童話から生き方を学ぶ

俳優の林隆三さんが人権講演

庄原市人権講演会を12月2日、市民会館で開催しました。「賢治童話の世界～ふるさと・愛・平和を願って～」と題して、俳優の林隆三さんが講演。林さんは、宮沢賢治の童話を朗読し、母親から民話や童話を聞いて育った経験を話しました。

「方言は、その土地の風土や生活と密接に繋がっていて、しかも魅力的でイメージの豊かさはすごいものがある。そのうえ、声に出して読むことはすばらしく、朗読することにより話が立体的に広がり、それが今の子どもや大人にも解かる、伝わる」などと、朗読のすばらしさを紹介しました。

講演後、約600人の来場者はアンケートで、「短い時間ながらも朗読を通して心が豊かになった」などと答えていました。



感情豊かな語りで賢治の世界へ引き込む

市内各地の民俗芸能が集結

庄原市民俗芸能大会



国指定「比婆荒神神楽」(比婆荒神神楽保存会)

市内の民俗芸能が一堂に会する「第1回庄原市民俗芸能大会」が11月25日、庄原市民会館で開催されました。

各地域で親しまれてきた民俗芸能の保存、伝承、公開をしようと、庄原市民俗芸能振興協議会が中心となって初めて企画。財団法人ひろしま文化振興財団の助成を受けて行われました。

国指定の重要無形民俗文化財である「塩原の大山供養田植」や「比婆荒神神楽」をはじめ、8団体が出演しました。

会場は約1,000人の来場者でいっぱいになり、「庄原市は無形民俗文化財の宝庫」と楽しんでいました。



国指定「塩原の大山供養田植」(小奴可地区芸能保存会)

芸術の秋をじっくりと楽しむ 第29回「くちわ文化祭」

毎年恒例の「くちわ文化祭」が開催されました。11月18日に「芸能祭」が口和文化ホールで、11月24日から26日に「作品展」が口和コミュニティーセンターで行われました。芸能祭では、舞踊にコーラス、太鼓の演奏など、伝統的なものから最近流行のものまで、幅広く繰り広げられる芸能に観客から歓声と拍手が送られました。作品展では、入口ホールに生け花が彩り鮮やかに飾られ、展示会場には、写真や絵画、書をはじめとした数多くの作品が展示されました。市美展の巡回展と並行開催されこともあり、力作揃いで、来場者はじっくりと作品を眺めていました。

また、12月3日から10日には、町内で募集した短歌や俳句・写真の作品が口和文化ホールで展示されました。



作品展の書の展示をじっくりと鑑賞

お兄さん、お姉さんと焼き芋で顔なじみ みどり園保育所と口南小学校が交流

保育所から小学校へスムーズに入学できるよう、口和町のみどり園保育所と口南小学校が11月29日、みどり園保育所で交流会を行いました。

保育所の青組と黄組25人と小学1年生11人が参加。1年生は「大きなかぶ」の演劇を披露し、園児は歌を発表しました。また、園児の保護者から提供されたサツマイモで焼き芋を作り、熱々に焼きあがった芋をみんなで食べながら、話も弾んでいました。

あと数か月すれば、青組の園児は小学校へ入学します。「交流会を通して、お兄さん、お姉さんと仲良くなり、小学校へ行っても楽しい学校生活が送れるのでは」と関係者は期待を寄せていました。



焼き芋ができるのを待つ子どもたち

保育実習で命の大切さを学ぶ 比和中学校の総合学習

11月15日、比和中学校3年生の11人が、比和保育所を訪れ保育実習を体験しました。

これは、保育所の園児たちとの交流を通じて命の大切さを学ぼうと、総合学習授業の一環として行われました。

中学生と園児がそれぞれ自己紹介した後、中学生が企画したフルーツバスケットとじゃんけんゲームで交流がスタート。最初は、緊張でぎこちない感じでしたが、楽しいゲームですぐに笑顔が広がりました。

中学生が絵本の読み聞かせをすると、園児たちは食い入るように絵本を見つめ、保育所の園庭で遊ぶと、あちこちで園児の歓声があがっていました。

保育実習に参加した中学生は「子どもたちはいつも笑って、その笑顔で見られたらこちらでも自然に笑っていました」「中学校では学べないことを学べて今回の経験を大切にしていきたい」と話していました。



じゃんけんゲームで交流

保・小・中・高が音楽でふれあう 東城町音楽交流会

今年で19回目を迎える東城町音楽交流会が11月20日、東城町老人福祉センターで行われました。

東城の保育所・小学校・中学校・高等学校が一堂に会するこの交流会に、本年度は9団体、392人が参加。東城小学校5年生による創作和太鼓に始まり、各団体は合唱や吹奏楽、エイサーなど、日ごろの練習の成果を発表しました。

東城中学校吹奏楽部の奏でる軽快なジャズナンバーには、観客も手拍子で応え大変盛り上がりました。また、客席から歌声が響くなど、会場が一つになって楽しんでいました。



東城小3年生のエイサー

塗装で明るい環境づくり 11月16日「いいいろ塗装の日」



渡り廊下の鉄骨をていねいに塗る会員

(社)日本塗装工業会広島県支部北部地区が11月16日、庄原小学校で塗装のボランティア活動をしました。

これは、(社)日本塗装工業会が塗装の良さを知らせてもらおうと、11月16日を「いいいろ塗装の日」と定めたことをきっかけに始まりました。

この日は、北部地区の会員5人が庄原小学校を訪れ、渡り廊下の鉄骨部分を1日かけて塗装しました。きれいになった渡り廊下を見て、子どもたちは「ありがとうございます」とあいさつ。会員も満足そうに天井を見上げていました。

大豆から育てた豆腐作りを発表 美古登小3年生の食育体験

12月1日、美古登小学校の3年生が「美古登祭」(学習発表会)で、豆腐の栄養価や食の大切さ・育てることのすばらしさを発表しました。

3年生は、この秋、自分たちが栽培し、収穫した大豆や地元の大豆を使って、親子で豆腐作り挑戦。「初めての豆腐作りは、しぼる時とても熱く、にがりの入れ方が難しかったけど、おいしい豆腐ができて、びっくりしました」などと体験を話しました。

「大豆300gで、豆腐が何丁できますか?」とクイズを出し、「正解は、大きめの豆腐一丁です」と児童が言うと、「たったの一丁?!」と、会場から驚きの声があがっていました。



親子で豆腐づくりに挑戦

干支「ねずみ」づくりに挑戦

木屋自治振興区が森友づくり教室

「森友づくり教室」が11月18日、総領町の木屋癒香の杜で開催されました。

木屋自治振興区は、「手作り集団木族」という活動グループを結成し、雑木を使って動物などを形作った手づくり木工品を「森友づくり」と名づけ、制作・普及活動に取り組んでいます。

今回は、一般の方にも平成20年の干支「ねずみ」づくりに挑戦してもらいたいと呼びかけ、小学生3人を含む15人が参加しました。

「平成20年が良い年になることを願って、ねずみづくりに挑戦しましょう」と、和田芳治区長の掛け声により、参加者全員が作業を開始。一人がねずみ3匹を目標に制作し、それぞれ個性豊かな見事な作品が完成しました。



子どもたちも夢中になって制作



園児が「火の用心」を呼びかける

総領町幼年消防クラブがパレード



拍子木を打ちながら元気よくパレード

総領保育所内で結成している総領町幼年消防クラブの園児48人が、秋の全国火災予防運動の初日、11月9日に恒例の防火パレードを行い、拍子木を叩きながら地域住民に「火の用心」を呼びかけました。

園児たちは、「絶対に火遊びはしません」と誓いの言葉を宣言し、総領支所を出発。上市自治振興会館までの約1.5kmのコースを、三次消防署甲奴出張所や消防団総領方面隊の応援、協力を得ながら、そろいのハッピー姿に身を包み、全員が最後まで元気よく行進しました。

昨年は雨のため中止となり、2年ぶりのパレードとなったため、沿道からも多くの温かい声援が送られました。

田総の里が防災用ヘリポートに

防災ヘリコプター救急搬送訓練

広島県防災ヘリコプター「メイプル号」による救急搬送訓練が11月25日、総領町の田総の里スポーツ公園で実施されました。

これは、田総の里スポーツ公園が10月1日から新たに防災対応のヘリポートの適地として運用開始されたことに伴って行われました。

訓練には、広島県防災航空センターの防災航空隊員、備北地区消防組合の救急救命士、消防団総領方面隊の団員が参加し、救急患者を三次中央病院まで約6分間で搬送する訓練を行いました。

また、ヘリコプターの一般見学、説明なども行われ、多くの地元住民が訓練を見学し、防災ヘリコプターの機能、威力に感心していました。

県防災航空隊の重光隊長は「田総の里スポーツ公園は、散水の必要がなく、ヘリコプターが離着陸しやすいヘリポート。緊急・災害時には積極的に利用してほしい」と話していました。



ヘリコプターを見学する地元住民

手作りそばでおもてなし

西城小4年生がそば打ち体験

西城小学校の4年生が11月14日、西城保健福祉総合センター「しあわせ館」で、そば打ちに挑戦しました。

介護予防事業「ニューあったかもやい」に参加する皆さんに喜んでいただきたいと、事前にそば打ちの仕方を調べたり、聞いたり、練習したりして、本番に臨みました。

この取り組みに「しあわせそばの会」も協力し、おいしいそばが完成。手作りそばで、おもてなしをして、一緒に食事をしながら、笑顔の交流が深まりました。



「しあわせそばの会」と一緒にそばを打つ

緊急時に備え心肺蘇生法を学ぶ

比和女性防火クラブが講習会

11月21日、比和女性防火クラブが心肺蘇生法の講習会を開催し、クラブ員など14人が参加しました。

講習会では、庄原消防署高野出張所の実近伸二さんから、心肺蘇生法の改正点や救急処置の際の大事なポイントなどについて、分かりやすく説明を受けました。その後、人形とAED（自動対外式除細動器）を使って心肺蘇生法を実践。分からない点を確認しながら、真剣に取り組んでいました。

会長の竹元芳香さんは「毎年、心肺蘇生法の講習会や炊き出し実習など、非常時に備えたさまざまな訓練を行っていますが、再確認できたこともたくさんあって勉強になりました。いつ起こるかわからない緊急事態に備えるため、今後も続けていきたい」と話していました。



心肺蘇生法を体験するクラブ員

作品発表や芸能音楽の祭典

高野町文化祭

高野の文化伝承・趣味・教養などを結集し、日ごろの活動の成果を披露する「高野町文化祭」（庄原市文化協会高野支部主催）が11月18日、上高公民館などで開催されました。

三味線や大正琴など6団体が芸能発表を行い、隣接する高野山村開発センターでは短歌・生花・陶芸・書道などの作品が多く展示され、約200人の来場者はじっくりと鑑賞していました。

茶道のお茶席では、80人分用意していた材料がすべてなくなるほどの人気で、参加者は「小さい規模だけど、とてもホットな文化祭で良かった」と話していました。



迫力ある湯川雪山太鼓

通学路が幻想的な雰囲気

学園ロードでイルミネーション

市役所高野支所や学園ロード一帯を照らすイルミネーションの点灯式が12月4日、高野支所前で行われました。

中高生の通学路を照らそうと、高野町観光協会などによる実行委員会が企画。今年で14回目になりました。

点灯式には、市職員のハンドベル演奏や観光協会による豚汁が振る舞われ、近所の親子連れなど約60人が参加。高野支所前のケヤキや、学園ロード沿いのイチヨウ並木を幻想的に照らす青やオレンジ色の光を楽しんでいました。このイルミネーションは、1月中旬まで設置されます。



市職員のハンドベル演奏